



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月13日

上場会社名 株式会社ラクス 上場取引所 東
コード番号 3923 URL <https://www.rakus.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 崇則
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営管理本部長 (氏名) 宮内 貴宏 TEL 03 (6683) 3857
半期報告書提出予定日 2024年11月13日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	23,002	30.2	4,660	171.3	4,660	166.3	3,630	200.4
2024年3月期中間期	17,662	38.7	1,718	153.5	1,749	151.0	1,208	185.7

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 3,793百万円 (207.1%) 2024年3月期中間期 1,235百万円 (174.9%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	20.04	—
2024年3月期中間期	6.67	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	24,708	16,720	67.7
2024年3月期	21,234	13,347	62.9

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 16,720百万円 2024年3月期 13,347百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	2.35	2.35
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	4.10	4.10

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2024年11月13日）公表いたしました「2025年3月期 通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前年同期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,500	26.3	9,400	69.1	9,410	67.7	7,310	74.6	40.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

除外 1社 (社名) 株式会社ラクスHRテック

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	181,216,000株	2024年3月期	181,216,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	42,144株	2024年3月期	1,966株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	181,182,394株	2024年3月期中間期	181,214,373株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、2024年11月14日に機関投資家・アナリスト向けWeb会議を開催する予定です。このWeb会議で配布する説明資料については、TDnetで決算短信と同時に開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が所属する情報通信サービス市場においては、働き方の見直しや人手不足に伴う業務効率化のニーズが高まる中、企業のDX(デジタルトランスフォーメーション)の取り組みが進展し、積極的なIT投資が継続しております。

このような経営環境の中、当社グループは、2021年3月期を基準として、2026年3月期までの5ヵ年で、売上高CAGR(年平均成長率)31%~32%、2026年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益100億円以上、純資産200億円以上とする中期経営目標に取り組んでおります。

当中間連結会計期間においては、中期経営目標の最終年度に向け、投資効率のさらなる向上を目的として、各サービスの受注状況に応じた機動的な投資の組み替えや、営業プロセスの見直し等の施策を引き続き行いました。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高23,002百万円(前年同期比30.2%増)、営業利益4,660百万円(前年同期比171.3%増)、経常利益4,660百万円(前年同期比166.3%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は3,630百万円(前年同期比200.4%増)となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①クラウド事業

クラウド事業は、主力サービスである楽楽精算、楽楽明細において、前第2四半期から前第3四半期にかけてインボイス制度や電子帳簿保存法による追い風を受け、顧客数が前年同期比で大きく増加しました。また積極的な投資は継続しながらも、各サービスの受注状況を踏まえ、投資の機動的な組み替えや、営業プロセスの見直し等の施策を実施しました。追い風が止んだことで主力サービスの新規受注が弱含んでおりましたが、第1四半期連結会計期間を底として、足元では徐々に回復しつつある状況です。その結果、売上高は19,593百万円(前年同期比32.5%増)、セグメント利益は4,205百万円(前年同期比167.3%増)となりました。

②IT人材事業

IT人材事業は、営業活動強化により稼働エンジニア数が増加し、前連結会計年度に低下していた稼働率も改善しました。その結果、売上高は3,408百万円(前年同期比18.5%増)、セグメント利益は454百万円(前年同期比214.4%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における流動資産は15,118百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,973百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金が1,226百万円、売掛金が582百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。固定資産は9,589百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,500百万円増加いたしました。主な要因は、のれんが166百万円減少したものの、投資有価証券が789百万円、工具、器具及び備品が555百万円、繰延税金資産が265百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は24,708百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,474百万円増加いたしました。

(負債)

当中間連結会計期間末における流動負債は7,753百万円となり、前連結会計年度末に比べ381百万円増加いたしました。主な要因は、未払消費税等が363百万円、1年内返済予定の長期借入金が187百万円それぞれ減少したものの、未払法人税等が385百万円、未払金が369百万円、未払費用が261百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。固定負債は234百万円となり、前連結会計年度末に比べて279百万円減少いたしました。主な要因は、長期借入金189百万円、繰延税金負債が128百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は7,987百万円となり、前連結会計年度末に比べ101百万円増加いたしました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は16,720百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,373百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金が剰余金の配当により425百万円減少したものの、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により3,630百万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,226百万円増加し、8,235百万円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、3,389百万円の収入(前年同期は1,385百万円の収入)となりました。これは主に、法人税等の支払額1,107百万円、売上債権の増加額522百万円、未払消費税等の減少額364百万円の減少要因があった一方、税金等調整前中間純利益4,659百万円、減価償却費353百万円、未払費用の増加額304百万円の増加要因があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、1,348百万円の支出(前年同期は3,883百万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出681百万円、投資有価証券の取得による支出550百万円、差入保証金の差入による支出137百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、803百万円の支出(前年同期は956百万円の収入)となりました。これは主に、配当金の支払額425百万円、長期借入金の返済による支出377百万円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、中期経営目標として、2021年3月期を基準として2026年3月期までの5ヵ年で売上高をCAGR31~32%、2026年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益100億円以上、純資産200億円以上を掲げております。

2025年3月期は、引き続き旺盛なIT投資やデジタル化のニーズを捉え、高水準な売上高成長を実現するため、積極的な投資を継続します。同時に、投資効果の見極めにより、最終年度の利益目標の達成に向け、利益率の向上に取り組みます。

当中間連結会計期間の業績、足元の受注状況、費用対効果を重視した支出の精査などを踏まえて、当初計画を見直し、売上高48,500百万円(前年同期比26.3%増)、営業利益9,400百万円(前年同期比69.1%増)、経常利益9,410百万円(前年同期比67.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益7,310百万円(前年同期比74.6%増)を計画しております。

また、配当予想につきましては、2024年5月14日の「2024年3月期 決算短信」で公表した配当予想から修正しております。詳細は、本日(2024年11月13日)公表いたしました「2025年3月期 通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,010	8,236
売掛金	5,702	6,285
その他	450	616
貸倒引当金	△18	△19
流動資産合計	13,145	15,118
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	288	281
工具、器具及び備品(純額)	1,173	1,729
有形固定資産合計	1,461	2,010
無形固定資産		
のれん	1,696	1,530
顧客関連資産	2,067	1,994
ソフトウェア	46	124
無形固定資産合計	3,810	3,649
投資その他の資産		
投資有価証券	429	1,218
関係会社長期貸付金	28	26
差入保証金	1,153	1,214
繰延税金資産	1,180	1,446
その他	41	55
貸倒引当金	△16	△32
投資その他の資産合計	2,817	3,929
固定資産合計	8,088	9,589
資産合計	21,234	24,708

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3	1
1年内返済予定の長期借入金	754	566
未払金	1,828	2,198
未払費用	1,341	1,602
未払法人税等	1,221	1,606
未払消費税等	1,026	663
契約負債	901	978
賞与引当金	35	—
その他	260	135
流動負債合計	7,372	7,753
固定負債		
長期借入金	216	26
長期未払費用	91	132
預り保証金	78	74
繰延税金負債	128	—
固定負債合計	513	234
負債合計	7,886	7,987
純資産の部		
株主資本		
資本金	378	378
資本剰余金	308	314
利益剰余金	12,681	15,885
自己株式	△1	△2
株主資本合計	13,365	16,576
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△48	116
繰延ヘッジ損益	1	△1
為替換算調整勘定	29	29
その他の包括利益累計額合計	△18	144
純資産合計	13,347	16,720
負債純資産合計	21,234	24,708

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	17,662	23,002
売上原価	5,217	5,988
売上総利益	12,444	17,013
販売費及び一般管理費	10,726	12,353
営業利益	1,718	4,660
営業外収益		
受取利息	0	1
為替差益	13	—
受取補償金	0	0
助成金収入	1	3
貸倒引当金戻入額	16	—
その他	1	1
営業外収益合計	33	5
営業外費用		
支払利息	1	1
為替差損	—	4
その他	0	0
営業外費用合計	1	6
経常利益	1,749	4,660
特別利益		
受取和解金	7	—
特別利益合計	7	—
特別損失		
固定資産除却損	3	0
特別損失合計	3	0
税金等調整前中間純利益	1,753	4,659
法人税、住民税及び事業税	695	1,494
法人税等調整額	△150	△465
法人税等合計	545	1,029
中間純利益	1,208	3,630
親会社株主に帰属する中間純利益	1,208	3,630

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	1,208	3,630
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	165
繰延ヘッジ損益	13	△2
為替換算調整勘定	13	△0
その他の包括利益合計	26	163
中間包括利益	1,235	3,793
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,235	3,793

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,753	4,659
減価償却費	249	353
のれん償却額	124	166
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△12	17
株式報酬費用	—	1
賞与引当金の増減額(△は減少)	18	△35
受取利息	△0	△1
支払利息	1	1
為替差損益(△は益)	△1	11
受取和解金	△7	—
固定資産除却損	3	0
売上債権の増減額(△は増加)	△836	△522
仕入債務の増減額(△は減少)	△0	△1
未払金の増減額(△は減少)	592	144
未払費用の増減額(△は減少)	132	304
未払消費税等の増減額(△は減少)	△49	△364
預り保証金の増減額(△は減少)	26	△3
その他	135	△234
小計	2,130	4,497
利息及び配当金の受取額	0	1
利息の支払額	△1	△1
受取和解金の受取額	7	—
法人税等の支払額	△751	△1,107
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,385	3,389
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△474	△681
無形固定資産の取得による支出	△25	△4
投資有価証券の取得による支出	—	△550
差入保証金の差入による支出	△78	△137
差入保証金の回収による収入	0	22
貸付金の回収による収入	2	2
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△3,306	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,883	△1,348
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,500	—
長期借入金の返済による支出	△189	△377
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△353	△425
財務活動によるキャッシュ・フロー	956	△803
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△10
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,530	1,226
現金及び現金同等物の期首残高	5,990	7,008
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,460	8,235

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当中間連結会計期間において、当社を吸収合併存続会社、当社の連結子会社であった株式会社ラクスHRテックを吸収合併消滅会社とする吸収合併を行ったため、株式会社ラクスHRテックを連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	中間連結 損益計算書 計上額
	クラウド事業	IT人材事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,784	2,877	17,662	—	17,662
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	4	4	△4	—
計	14,784	2,882	17,667	△4	17,662
セグメント利益	1,573	144	1,718	—	1,718

(注) 報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

クラウド事業セグメントにおいて、株式会社ラクスHRテックの株式を取得し、連結子会社としております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当中間連結会計期間においては1,523百万円であります。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額	中間連結 損益計算書 計上額
	クラウド事業	IT人材事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,593	3,408	23,002	—	23,002
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	9	9	△9	—
計	19,593	3,418	23,011	△9	23,002
セグメント利益	4,205	454	4,660	—	4,660

(注) 報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度末より、報告セグメントごとの業績をより適正に評価管理するために、主に当社の共通コストの配賦基準を見直し、事業セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報については、変更後の利益の算定方法により作成したものを記載しております。この変更により、従来の方針に比べて、前中間連結会計期間のセグメント利益が「クラウド事業」で38百万円減少し、「IT人材事業」で38百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。